



さて、久しぶりにハイキングに行ってきた。いつもバンクラに行っている仲間とだが、本当は地獄ざれを歩いていつもの谷に行って、また誰もいない世界で一晩楽しんでこようと言っていたのだが、そんな話をしていたら突然の電話で、福井県の造り酒屋が青山でやる試飲会に行くことになってしまって、山は一日だけとなってしまった。悲しむべきか喜ぶべきか良くわからない。

当日、珍しく山へ行く電車で彼と会ってしまった。しばらくはまじめな話だが、なんとなく落ち着かない。「ちょっとやる?」「グラスと箸はいつでも出ます。」ということで、やっぱり始まってしまった。困ったものだ。結局その日に登る山も気が

変わってまったく別の山に変更、電車も特別快速に乗り換えたら、ふっと気づくと、降りる駅は止まらず行過ぎてゆく。二駅ほど行過ぎたが、面倒から歩いて戻ることにして、エネルギー源のワンカップを買いにコンビニに走る。あとはひたすら山を目指して車道を歩く。いかげん歩いたころ自転車のおっちゃんが追いつき「どこ行くの?」から始まって歩きながら話していて、地元の彼の意見としたら、今歩いている所から一番遠い上り口が「すばらしい」ということで、確固たる意見など持たないいかげんおじさんたち(私たちのことだが)はなんとなくまたもやそっち方面にずるずるとひきずられて行く。

ようやく山道にたつて元気良くワンカップをカパッとあけて飲みながら登り始める。至福の時間が過ぎてゆく。しかしふっと気づくとなんとなく道が違う。変な谷を登っている、これは間違えていると話しながら「山頂は上なんだから上に行かば必ず山頂に着くはずだ。」と無茶な意見で更に登ってゆく。しかし谷は徐々に悪くなってゆき、片手にワンカップではどうも具合が悪いので、一気に飲み干して更に上を目指す。しかしこれは結局破綻して戻って来ざるを得なかったが、まあ、反省しつつも山頂を目指したわけだ。

山頂は富士が見事だったが、なんとなく落ち着かず、というのば酒がうまくないのだ。今までこんなことがあったらどうかなどと話しながら飲むのだが、いっこうにうまくない。昨夜飲み過ぎたのかななどと思いつつながら適当に飲んでさっさと下り始める。

もうすぐ人里に出てしまいそうなので、道端の石垣の上に座って残った酒などを出してゆっくり飲んだ。同じ酒なのになんだか美味いのが不思議だ。ほとんど人は通らなかったが、地元の爺さんと、ばあさんと、犬が目の前を行ったりきたりして、そのたびに話し込み、分かりやすくおおらかな世間話にみんな笑顔になり、心が豊かになって日が暮れてゆく。

反省点は多々あるが、帰りの電車でもちびちびと反省しつつ、おとなしく帰った。なんだかいい山だったなー。

ブログのアドレス <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/>

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com